

# 旭

印刷を支え加工を活かす

瓜破工場 折部門  
グエンヴァンハイ



今回インタビューしたのは瓜破工場のグエンヴァンハイさんです。折部門は「天職」だと話すハイさんに、仕事のやりがいや、どうやって困難を乗り越えたのかなど、たくさんお話を伺いました！

——まずは現在の業務内容について教えてください！

折部門でオペレータの仕事をしています。原稿や指示書をもとに、原稿通りの商品を量産できるような機械の設定を行ったり、定期的な機械のメンテナンスを実施したりしています。

——これまでの経歴と、入社が決まったきっかけについて教えてください。

前職はベトナムで機器のデザインをしていましたが、2016年6月に知人からの紹介で旭紙工を知りました。私はずっと「環境を変えて新しい仕事に挑戦したい」と考えていたので、これを機に外国での仕事も経験したいと思い、旭紙工への入社を決意した次第です。職場の皆さんは優しい

人ばかりで、なおかつ仕事に情熱を持っています。また、上司や先輩たちは私のさまざまな質問に丁寧に答えてくださり、指導していただけるため、大変働きやすい職場だと感じています。

——入社してから苦労したことを教えてください。

入社してすぐの頃、周りの仕事の速さに全くついていけず、悔しい思いをしていました。それから毎日、私は仕事の後に1日の仕事内容を振り返り、反省を繰り返して、改善方法を見つけたために諦めず頑張ってきました。その結果、今は皆の仕事の速さに追いつけるようになりました。

また、私は「紙の折方」に非常に強い興味を持っており、それがこの仕事を継続している最

大の要因だと考えており、折部門の仕事は自分にとっての「天職」だと感じています。折部門で紙の折り方を含め、加工のやり方についてもさらにいろいろと勉強をして、この分野で専門性を高めたいと考えています。

——やりがいを感じる瞬間はどんなときでしょうか。

機械の設定を行った後、問題なく稼働し、美しい商品を作り出した際に一番やりがいを感じます。また、トラブルが起こった際に自力ですべての問題を究明・解決できたときは、成長した自分に大きな喜びを感じます。

——折部門の好きなところを教えてください！

紙には色々な折り方があり、勉強し出すととても奥が深いのです。折部門には各折り方に適したさまざまな種類の機械があるので、実際に機械を触ってみることも楽しく感じています。

また、難しい仕事でも信頼して任せてもらえるところがこの会社の良いところです。それゆえに、チャレンジしたい人にはさまざまなスキルアップができるチャンスがあります。また、上司とは定期的に面談をしています。仕事でチャレンジして頑張ったところはしっかり評価していただいています。周りの同僚も皆親切で、とても接しやすい方ばかりです。

——それでは最後に、今後の目標について教えてください。

今後も折部門でさまざまな仕事にチャレンジしていきたい、オペレータとしての専門性を高めていけるよう、精一杯頑張りたいと思います。そして、機械をより早く設定し、より不良品を抑制できるようにすることで、会社の利益に貢献したいと考えています！

ハイさんは製本物のセットが非常に綺麗にできるようになりました。今後は特殊な折りや糊とじも覚えてもらう予定ですので、頑張ってくださいと思います。セット時間の短縮と稼働率の向上に向け、日々の仕事に取り組んでいただければと思います！

今回表紙を飾ったハイさんへ向けてのコメントを  
上司である折部門課長 寺山幸作 さんより頂きました！

## Message For You

### 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人

# 部署紹介

Department Introduction



## 4年の軌跡

### 瓜破工場 断裁部門編

前回の部署紹介から早4年……。世界は新型コロナウイルスの脅威にさらされ、人との接点が持ちづらい時代になってしまいました。しかし、そのような中でも社員が互いに助け合い、強い絆で苦難を乗り越えてきたからこそ、“今の旭紙工”があります。この激動の4年を振り返り、部署としてどのような変化があったのかを聞きました。



### 所属人数

社員、学生社員、アルバイト、タイ人実習生など11名が在籍しています。

断裁部門 課長  
むとう えつお  
武藤 悦朗さん



## 2019年からの変化

### 2019年

#### 夢中で駆け抜けた1年

私は責任者になったばかりだったので、がむしゃらに取り組んでいた時期です。管理しなければいけない部分も増え、慣れない業務に奮闘していました。この頃、技能実習生の企画が相次ぎ、人の入れ替わりが激しかったと記憶しています。



### 2020年

#### 仕事量減少で苦しい時期

新型コロナウイルスの影響で仕事は減っていたと思います。業務の効率化を考え、急に次の日の仕事を休んでもらうこともありました。最少人数で動くことを第一に考えていたので、「明日は来なくていい」と伝えなければならないことに心苦しさがあったのは確かです。

### 2021年

#### 感染症を身近に感じた年

家族が新型コロナウイルスに罹患し、それまで「対岸の火事」のような感覚だった新型コロナウイルスを初めて実感。職場でも社員が罹患してしまいました。当時は2週間の隔離が必要だったと思います。つまり、罹患してしまうと2週間は完全に出勤できなくなるということ。戦力が削られていく中、工場全体で助け合い、乗り越えました。動ける人員が減っていた時期の仕事は、会社の判断で外注へ委託してくれていたようです。こちらの状況を把握し、ヘルプの人員も手配してくれていて、とても助かりました。

### 2022年

#### 忙しさで人手不足に

私自身が成長できずにいると感じる1年でした。課長に昇格しましたが、その役職に見合うだけの働きができていないのでは、と苦悩する日々。チームとしては仕事量も増えてきて忙しくなり、他部署や間接人員にも手伝ってもらいました。また技能実習生14期、15期のメンバーたちは、断裁の仕事覚えるために一生懸命頑張ってくれています。



### 断裁部門の強み

本来であれば残業時間は極力なしの方向で仕事を進めています。しかし、そこはまだ私の力不足もあり残業になってしまう日も……。それでもみんな嫌な顔をせずに対応してくれるので、本当にありがたく思っています。

### 責任者になって最も苦労したこと

仕事の進捗状況や配置人数の適正さ、売り上げ管理など、責任者としての仕事をきちんとこなせているのか、4年経った今もまだ自信がありません。それでも、これから自分自身が胸を張って過ごしていけるように、まずはできることから取り組んでいくことを心がけています。



### 断裁部門としての目標

製本の最初の部分を担っているため、後工程からクレームがこないようにしなければなりません。そのためにも断裁部門のメンバーが共通の意識を持って取り組む必要があるでしょう。後工程に良い橋渡しができるような部門にしていくことが目標です。

### メンバーへのメッセージ

課題を感じていることばかりなので苦労をかけることも多いと思いますが、ついてきてください。